

2012.2 月

実質、あと1ヶ月の3学期である。事務量が急激に増える時期であり、今年度の成果と課題を来年度へどのようにつなぐか、具体化する重要な時期にもなる。

### 1 子どもの理解や解釈、洞察する感度・精度を高める

明日の授業を考えると、子どもの理解を抜きには考えられない。子ども理解がないがしろにされた時、授業は学びの場としての色が褪せる。例えば、明日教える内容を、既に子どもが完全に認識していれば、指導の必要性は生じないし、明日教えようとする内容を間違えて認識していれば、教え方はかわる。学習者の状態・状況をいかに把握するかが、授業づくりの\*キャストイングボードを握っている。これらについては、確かに言葉としては分かる。しかし、子どもを理解するとはどういうことなのか。

これまでも子どもの理解は、見えるものからでしか理解できないと言ってきた。多くの熟達者は、同じ子どもの見えるもの（現れ）を見ても、さまざまな点から解釈や洞察をしていく。結果、学びの構成が子どもにとって合致する。子どもの現れから解釈・洞察する感度、精度、理解度が高めるには、授業の省察(reflection)しかない。教師の願いと子どもの事実とのズレを謙虚に受け止めていく作業でもある。子どもの状況把握を失敗すると、教師の認識を一方向的に再生する授業となってしまう。子どもの状況を洞察し、子どもに応じて行く行為が指導の有効性を決定していく。

### 2 子どもの教育的ニーズに応じる

ニーズ (needs) という言葉をよく聞く。例えば、社会のニーズと言え、社会の要請と考えられ、保護者のニーズと言え、親御さんからの要求となろう。今の社会や教育を考えれば、その要求されるものや期待されるものは大きい。

このことから「子どものニーズ」とは、子どもの要請や子どもの要求となろう。では、子どもの要請や子どもの要求とは何か。「先生、遊び時間を長くしてください。」「先生、宿題を出さないでください。」なども、確かに子どもの要請・要求である。しかし、このような勝手なわがままを子どものニーズと呼ぶつもりはない。あくまで子どもの教育的ニーズ（求め）にとらえたい。

この子どもの教育的ニーズ（求め）とは、子どもの現段階での力と到達できそうな力との間（ギャップ）のことと考える。単元の最初に、いろいろな視点から子どもの実態を把握し、最終的にはここまで到達できるように目標を設定するのが、教科指導における授業づくりの基本となろう。この最初と最終との間（ギャップ）を埋める計画が単元計画であり指導計画である。したがって、子どもの教育的ニーズ（求め）は、教師によって把握され、学習者本人がいつも自覚しているものではない。



笑顔あふれる子ども熟議 2012/01/17

#### キャストイング - ボート【casting vote】

- 1 会議で賛否同数の場合の議長（委員長）の決裁権。また、議会などで、二大勢力が均衡している場合の第三党の持つ決定権。
- 2 どちらになるか決まらないときに、それを決定することになる力。

学習者の理解—解釈—洞察力こそ、授業力の要

本市特別支援教育推進ビジョン  
「一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」～一貫したきめ細やかな支援をめざして～

左の考え方は、特別支援教育の分野では常識であり、個別の支援計画の作成に活用されている。